

ニュースリリース

朝日小学生新聞で毎日連載中のまんが
1月17日で1万3616回

いずみしょうじ

泉 昭二先生の「ジャンケンポン」が日本一長いまんがに！

朝日小学生新聞の一面で連載中の四コマまんが「ジャンケンポン」があと2回で1万3616回をむかえます。これは、毎日新聞で2001年まで連載していた「まっぴら君」を超えて、全国紙の連載まんがで最長記録になります。

1969年9月の連載スタートから43年4か月。記録更新となる朝日小学生新聞1月17日付では、作者の泉先生の連載を始めたきっかけや読者に伝えたいことを掲載しています。



【泉 昭二】

東京荒川区で生まれる。法政大学で、日本文学を勉強。卒業後は日本で初めてのまんがの学校「東京デザインカレッジ まんが科」へ入学。

その後まんが家に。

第5回日本漫画家協会優秀賞受賞。日本漫画家協会参与。漫画集団員。

～泉昭二先生から～

「ぼくがやさしい気持ちでかいたまんがを読んで、子どもたちが心温まる感想を送ってくれているのが、何よりもうれしいです。今までずっと、みなさんのおかげで続いてきました。これからも、たいそうなことはできません。でも、なるべく新しいネタを見つけて、読者に楽しまれ続けるようがんばりたいです」

「ジャンケンポン」の本が出版されます

2月中旬発売予定

『ジャンケンポン 朝日小学生新聞連載まんが
昭和～平成』

著・泉昭二／朝日学生新聞社刊

本体価格 1000円+税

【ほかの長期連載まんがは？】

毎日新聞夕刊に連載されていた「まっぴら君」（加藤芳郎さん）は1954年1月～2001年6月の間で、計1万3615回。全国紙の連載漫画で最長とされてきましたが、「ジャンケンポン」がこれを抜きました。

東京新聞などで1956年3月～2007年3月、途中に長い休載や改題がありましたが、通算44年間連載された「ほのぼの君」（佃公彦さん）は、計1万5451回です。

ほかに、毎日新聞朝刊で連載中の「アサッテ君」（東海林さだおさん、1974年～）、しんぶん赤旗で連載中の「まんまる団地」（オダシゲさん、75年～）などがあります。

アニメでおなじみの「サザエさん」も、もともとは4コマまんが（長谷川町子さん）です。福岡の地方新聞などを経て、1951年4月～74年2月、休載期間などもありましたが、朝日新聞朝刊で連載されていました。

「タイムカプセル」



水槽の中で全長五センチほどの小さなニジマスが元気に泳いでいます。東京海洋大学の品川キャンパスは、冷凍した細胞

東京海洋大学院 吉崎教授が成功

絶滅した種を復活させる技術

カチカチに凍らせた魚の細胞から、生きた魚をつくることに東京海洋大学大学院の吉崎悟朗教授(水産学)が成功し、十四日付のアメリカ科学アカデミー紀要オンライン版に発表しました。絶滅の恐れのある魚の細胞を保存すれば、いつでも生き返らせることができます。どんな成果なのでしょう。吉崎さんに聞きました。

冷凍保存の細胞からニジマスやヤマメ



吉崎悟朗さん

をものに生まれました。魚は卵から生まれますが、新しい生命の誕生には人間と同じようにお父さんの持つ精子と、お母さんの持つ卵子が必要です。吉崎さんたちは、この精子と卵子を冷凍してとっておけば、もしその魚が絶滅してしまっても



ニジマスの赤ちゃんに冷凍細胞を移植—東京都港区の東京海洋大学で

進む

冷凍した細胞を使ってニジマスから生まれたヤマメ

研究。吉崎さんはニジにヤマメを産ませた。成魚の卵(クケフグ

のです」と吉崎さん。人などの哺乳類ではそういう技術の研究が進んでいますが、魚の場合は直径〇・一ミリ程度なのに対して、ニジマスは直径六くハミリ。体積にする

約三か月後に解凍。と数十万倍もありましてそこで吉崎さんた精子や卵子ができる細胞ならうまくいくはないかと考えました。そしていろいろなをした結果、精子のになる細胞(直径約〇一ミリ)が役に立つと発見しました。ニジマスの精巢(白を特別な方法で冷凍約三か月後に解凍。



2013年 1月15日 火曜日 (平成25年)

©朝日小学生新聞社 〒530-0005 大阪市北区中之島 3-2-4
電話 06(6202)3893(販売) 06(6202)3200(広告) 06(6202)4661(編集) 03(3545)5222(記事)

公立一貫校講座	作文問題	2面
ミニ図鑑	「雪の結晶」	3面
まんが	新しい国立競技場は?	5面
まんが	パパモッコ	8面
野生動物研究室「パンダイルカ」		



毎朝よんでいます。これからも楽しいマンガをかわいてください。

(千葉県・庄司春菜・2年)

あと2回！明後日17日で記録更新！